

**Q6 留置手術後、どのくらい経過すれば  
治療開始できるのですか？  
いつまでも使えるのですか？**

点滴治療は留置直後から行うことができます。切開した傷口の抜糸は約1週間後に行います。抜糸すれば入浴が可能になります。カテーテルが血栓で詰まらない限り、いつまでも使用することができます。治療の必要がなくなった時には抜去することもできます。

**Q7 留置後に注意すべきことは？**

点滴用の注射針を刺した場所が感染しないように、十分に消毒することが大切です。病院で穿刺された注射針を自宅に帰って自分で抜去することができます。詳しいことは担当医にご相談ください。

**Q8 費用はどれくらいかかりますか？**

静脈ポートの留置は保険が適応されます。費用は追加の処置の有無によって異なりますので、詳細については病院または担当医にご相談ください。

# 点滴の新しい方法： 静脈ポートって？



## IVR学会 広報委員会

日本IVR学会 事務局  
〒355-0063 埼玉県東松山市元宿1-9-4/ハイムレグリス1階  
<http://www.jsivr.jp/>

(2009年3月制作)

**IVR学会**  
<http://www.jsivr.jp/>

## Q1 静脈ポートとは

静脈ポートとは、心臓の近くの太い静脈に留置した中心静脈カテーテルと皮下に埋め込んだポートという器具を連結させ、中心静脈へ栄養や薬剤を簡単に注入できるようにする新しい点滴システムです。ポートは直径2cm程の大きさで、ここに注射針を刺して点滴治療を行います。

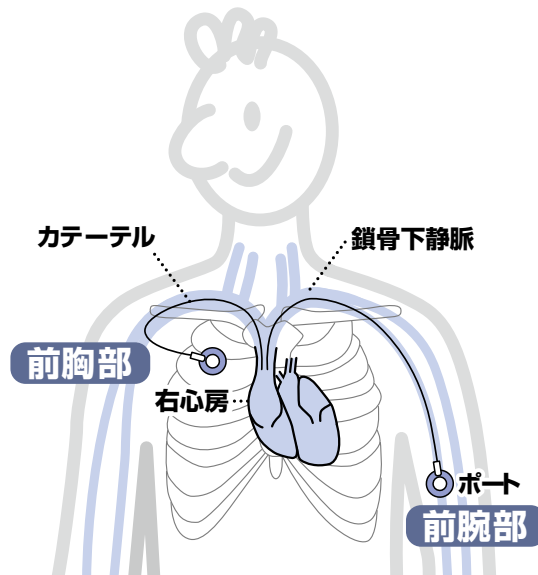
## Q2 どのような患者さんに使われるのですか？ どんな利点がありますか？

静脈ポートを用いれば、腕や手首の静脈からの通常の点滴では注入しにくい高カロリー点滴や抗がん剤を注入することができます。

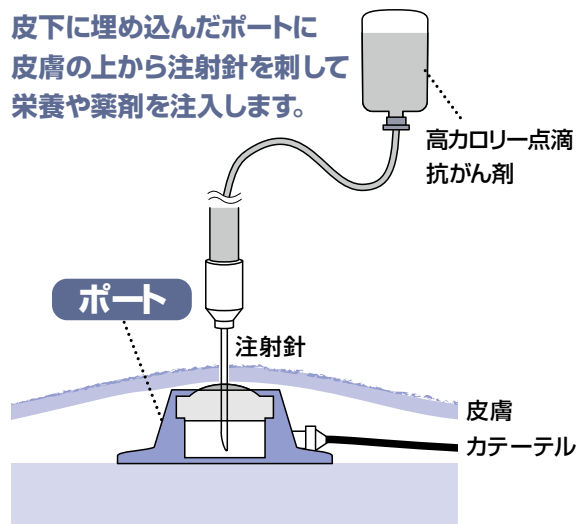
もちろん中心静脈カテーテルだけでも、これらの点滴治療は可能ですが、カテーテルが詰まらないようにするために、常時、点滴を続けなければなりません。また、カテーテルが体外に出たままの状態ですので、日常の行動が制限され、入浴もできません。

静脈ポートを留置すれば、点滴治療をしない時間には、ポートから注射針を外して通常の生活ができます。高カロリー点滴は在宅で行い、抗がん剤治療は外来で行うことも可能になります。

## ● 静脈ポートの留置部位



皮下に埋め込んだポートに  
皮膚の上から注射針を刺して  
栄養や薬剤を注入します。



## Q3 どうやって留置するのですか？

まず、局所麻酔を行った上で、中心静脈カテーテルを留置しようとする付近をエコーなどで確認しながら目的の太い静脈を穿刺します。つぎに、レントゲン(X線透視)を見ながら、ガイドワイヤー(細くやわらかな針金のような器具)を心臓の右心房の近くまで挿入し、それに沿わせてカテーテルを留置します。ここまでの操作は通常の中心静脈カテーテルの留置と同じです。

つぎに皮膚を数cm切開してポートを埋め込む場所を作ります。すでに留置した中心静脈カテーテルをポートと連結させ、再びレントゲンでカテーテルが正しい位置にあることを確認した上で、ポートを皮下に埋め込み、切開部位の皮膚を縫合して留置手術を終了します。

留置部位は、多くの場合、前胸部か前腕部が選択されます。

## Q4 留置手術は どれくらいの時間がかかるのですか？

通常は1時間前後です。

## Q5 留置手術に伴うリスクはありますか？

まれですが、太い静脈を穿刺するときに、肺を傷つけて気胸を合併することがあります。また、小さな動脈を傷つけて出血量が増えることがあります。麻酔薬や造影剤を使用しますので、これらの薬剤の副作用として掻痒感や気分が悪くなるなどの症状が現れる場合があります。留置後には、切開部の傷からの出血、感染が起こる場合があります。